

北 どりくろあ

第104号 2024年11月1日（毎月1日発行）

文学紀行

「倉田百三のゆかりの場所を歩く」

馬込文士村・多磨霊園

10月10日木曜日午前7時、車で庄原の自宅を出た。大学時代の遊び仲間の旅行に参加するためだが、訪問しておきたい場所があった。それで、2日ほど前に上京することにした。

20分程で、三次東インターチェンジより高速の松江自動車道路に入る。島根県の三刀屋インター

チェンジまでが無料区間で、料金所のゲートを通過、宍道（しんじ）インターチェンジまでの高速料金が500円、わたしの愛車は軽バンのなので430円だ。三次東―宍道の距離は73・2km、走行時間は1時間10分ほど。宍道インターチェンジを出てから10分弱で出雲縁結び空港に到着。自宅を出てか

ら1時間40分弱だ。

広島県民としては、広島空港を選ばなかったことに対して後ろめたさはあるが、出雲空港を選択した理由がある。一つはアクセスのわかり易さ。高速道路で空港近くまで行けるので、時間の計算ができるし快適である。もう一つは、出雲空港の駐車場は無料。ただし、東京までの運賃は広島空港の方が安く、日本航空がメインの出雲に比べて広島は全日空もあるので、選べる便数も多い。早期予約の割引料金を調べて、自分に合ったルートを選ぶ必要がある。

9時15分発の羽田行きに搭乗して、雲上人となる。以前は「身辺整理」をしてから飛行機に乗ったものだが、いつの間にか緊張感は薄れてしまった。それでも、緊急時のビデオはしっかり記憶＆チェックする。雲の雪原から覗く「海底」の日本列島の景観は壮大だが、着陸時の急激な気圧上昇による耳痛に対処法はないものか。10時30分の予定に少し遅れて羽田に到着した。

羽田から京浜急行に乗って品川で下車。京浜東北線に乗り換えて、JR大森駅で改札を出た。駅の西側の地域、大田区山王、馬込、中央一帯は、大正末期から昭和初期にかけて、多くの文士、芸術家が関東大震災後に移り住み、交流を深めていた。いつしかこの辺りを

「馬込文士村」と呼ぶようになった。石坂洋次郎、稲垣足穂、川端康成、北原白秋、室生犀星、山本有三等々、文豪たちの中に庄原生まれの倉田百三がいる。

まず、駅の東口に出て、安田病院を探す。倉田の主治医が院長をしていた病院だ。しかし、所在地は工事中で新しい建物を建設中だった。近くのドラッグストアで確認すると、安田病院は近くの商店街に移転して、名前も変わっているという。

駅に戻って西口に出て、鉄道沿いの池上通りを蒲田方面に向かって歩いた。小さな商店が並んでいて、看板を見ているだけでも楽しい。環七通りにぶつかる交差点を渡って、環七通りを右にしばらく進むと、「安田眼科」の広告看板がある。指示に従って住宅街の中を少し歩くと、安田眼科が見つかった。倉田百三の家があった場所である。安田病院の院長が買い取って、親族が眼科医院を開業したのだと思われる。解説板が設置されている。

「倉田百三の家は、南馬込の谷中通り近くにあり、大正十四年に越えてきて以来、生涯この家で暮らしました。書斎に使っていた洋館の前が藤棚になっていて、庭の前には蓮池があり、また近くの傍らには洗い場があって、付近で採



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

電話 0854-21-1111

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会